

免引之卷

全

和装本

ケ 5

44

77





大坪本流免引之卷

如行發之入之記之

- 免引手細之夏場中ニテ馬出左右成時左右之手細テ引縮亦免之引合乗也本ノ口ニナリ本ノ足ニ直ル時口ニ知セヌヤウニ免之乗之
- 純合手細之夏時能中馳ノ馬ニ可也場中ニテ馬出左右成時ニ左右ノ腰純合前輪ニ懸リ引合ヲ乘也
- 馬一段ト過テ拘ヘニクキ時ハ手細手ノ内ヲ

○ 強ク取行方宛 互^互遠ニ引ヘシ 引カス間
ヲハ繪^會叙ヲ以テヤツト 疵ケテ吉強ハ免
サス之口傳唯引モウ免スモ掌ノ純合計也
○ 引テ免ス夏午綱ハ誥免シノ物也内藤左金吾ノ
云午ノ内ハ生徳ノ物也引誥タレハ手キカ
ヌ衆人ノ夏ノ能時合ニ免ス夏難成物也

○ 日讀ノ手綱悍ノ馬ニ申也鞍直時前輪ニ懸
リ居木崎ヲ股ニテ杖^挟ニ鐙ヲ一文ニ踏之

手綱長キ時中指ト人指指キテ可取誥是
コ一寸誥ト云之

○ 小割ノ手綱悍ノ馬ニ可之強馬ハ純合計強キ
故ニ馬自中ノ口ニ請割夏左丈ヲ其終
割テシト免シヲシテ可衆之
○ 口強キ馬ハ一引々テ請ヌ所ニテ免スヘシ
退カスニ請合スヲ退カスヘカラスマニ
○ 引返シテ免シテ衆ヘシ

○ 間ノ手綱ハ地口強ク驛ル馬退リ馬物ヲ見
 ルト一歩ニ留ラヌト是等ニ可也地口強ク乘
 人ヲ引立々行ハ轡ノハミヨウ左右ハ亦替々引
 出シ乘ヘシ口ニ張所ヲクテ引ルミ度ナシ驛リ出
 ル馬留ミハミヨウ 扱出シ々一歩ノ如ク留ル也退ル
 ニ退ル所ニテ後輪ニ乘口ニ強ク當テ左右ハ
 ハミヨウ引出シ々スレハ歩ミ出ル也此時ハ下
 口ニテ乘ヘシ留リキヲス行ニハサクイ

○ ト口ニ當リ 諸免ヲニテ留ル之口ニ繪叙會キ
 馬ヲ引拘ヘテ轡繪叙會時免スヘシ是皆間ノ
 手綱也
 ○ 卷簾簾之年綱引ル時左ニテモ右ニテモ一
 揃々下へ切下上へ摩上々ニテ亦下へ切下
 廻スヘシ廻サレ時ハ揃々ルニ方ヲ解シ揃々
 ニ方へ返ス也其後輪ヲニ二三可乗ク
 ○ 摺合ノ手綱馬出ル時前輪ニ懸リ強クヲ摺合

- 居本移リヲ系ニシテ 向口ヲ引放テ可乘ニ
- 繰上袖返テ細馬餘リ 手細自然ニ長成タラ
- 延タル方ヲ一絡ニ絡テ 乘ヘシ馬靜ニリテ
- 後手細常ノ如ク取諾免引繪^會叙ヲシテ申乘ニ
- 諸引手細躍ノ馬ニ可ノ前輪ニ懸リハサニ立透
- 手馬テ足次ニ隨テワロクト引合諸引
- 手乗ヘシ亦大凡ノ馬喰下行ニモ吉
- 外引ノ手細馳ノ馬ニ可也場中ニテ一足早ク
- 乘時人ノ見ス方ノ手細ヲ平首ニ押付ル様ニシ
- 手向ノ押心有ヘシ其時人ノ有方ノ鐘十強ク踏ヘシ
- 橋^橋手細下悍ノ馬馳早ニ可也場中ニテ手細
- 完上ケ橋金ノ上ヘ懸刺付テ 乘ニ同強
- 手方リ思クニ引シテ乘ヘシ
- 踏溢シ鐘ノ事悍能キ馳ノ馬ニ可也場中ニ
- 手出左右成時鐘一方踏下口強キノ
- 細手ニ引諾繪^會叙乘ヘシ

○ 釣舟手細肩ヲ出シ行馬ニ可ニ懸ル方
 ノ手細ヲ場末ニテ折廻シ引メク衆
 之場中ニテモ右ノ繪^會叙可ク
 ○ 直ニ不行馬ノ夏^從綴ハ左ヘ添テ右ヘ行又左
 ノ手細ヲ指鹿ク鞍ヘ押ヘテ右ノ手細ヲ高ク
 取テ叭々ト免シ跑ルヘシ右ヘ添テ左ヘ行又時モ同
 断也
 ○ 歩切歩合手細背曲ルニ吉曲ナル方ク強ク

○ 引切ニ切ヘシ其後引遠ノハシメ繪^會叙專ナリ
 ○ 落シ手細^{ハシ}テ請ル馬ニ可也請サル方
 へ引一度ニ免シ請ル方へハシテ引拔ヘシ
 度々如此スニハ諸ハシニ成之唯當ノ繪^會叙專ニ
 ○ 斥口強シテハシテ拔ニス馬ヲハ強方ノ
 羈ハ房ヲ同其方ノ手細ニ取添テ繪^會
 叙ヲ衆ヘシ必スハシテ拔ヘシ手内ヲ
 和力ニシテ馬ノ氣ヲ外ニテ申衆ニ

裏表手細行口ニ可之弱キ方ヲ和ニ引ニ
 引レシト口ヲ履之其時指免セハ馬利ヲ
 得テ弱キ方強ク成ヘシ馬己ト口ヲ
 直ス之是ヲ裏ト云口強方ヲ引ニ引
 レシトスルヲ引シメ持セ其時響ヲ繪會
 叙ハソ口リト免スヘシ口和クナリ
 人馬ヲ直ス是ヲ表ト云ナリ
 〇 尻肢ノ中骨弱ク前足堅ク皮間骨ト

〇 毛ニ懸合テ強キ馬ノ口ノ裂目深ク吭ノ
 根反シテ足本ヲ見スニテ驛リ人ヲ引
 馬ヲハ庭中ニテ翔廻エテ疾ヘシ前輪
 ニ懸リ左右ノ鐙ヲ同シ心ニ踏左右ノ股ヲ
 透シ腕ヲ延左右ノ手細ヲ同シ心ニ取テ
 口ニ掛揺居左右ノ筋ノ際ハ詰テ免ニ足ニ
 足歩セテハ詰免々々衆強キ下断ニ折尻
 股弱キモ衆助ケテ能成口趣ニ定ル物ノ

○ 志キ媿敷鞍駕篋ニ摩付ル馬ニ可ク付タル方
 ノ手細ヲ引詰テ足ヲ直ス時免シ付又方
 ノ手細ヲ引腰ヲ撫リ後輪ニ乗ソ口ノ下
 引ヘ之引レテ頭討曲ハ鐙ニテ目ノ下
 ヲ蹴手ヲ返シ開キカラクト引ヘシ
 ○ 空手繰ノ手細地道ナキ馬ニ可ナリ
 手細ヲ巻様ニ引合鞍重ク乗ヘシ
 ○ 鴨ノ乱口ノ夏道去ル時返スニ吉返ス方ノ

手細ヲサテト小引ヲシテ大廻ニ返スヘシ
 ○ 廣秀ノ曰引ト免トノ二ツノ事ハ手細ノ父
 母ニ因忠ノ云何トシテ引免ヲ手細ノ
 父母トハ云ツク秀ノ曰弓術大成トイヘ
 是亦引ト放ノ二ツニ至極セリ馬モ其如
 ク諸々ノ習在トイヘ凡引ト放トノ二ツ
 ノ手細ヲ以テ常馬ノ至極トス縦緞ハ出
 ル馬驛リ馬ノ氣ヲ和クルモ引ト放ノ

繪叙^會也切曲痿曲立曲蹬曲込曲其外種々ノ曲馬ノ
 氣ヲ轉シサセテ直ニ爲モ引放ノ手細ナリ
 亦口ヲ尻馬ヲ結スルモ嚙ヲ喰止テ牙ニ
 懸ルヲ解スルモ引放ノ繪叙^會ニテ直ニ之惣
 而此手細ハ馬ノ心ヲ和ケテ心ヲ強ク爲シ
 足ヲ止テ足ヲ早ク爲シ口ヲ和ケテ口ヲ強ク
 爲ス弱キ所ニ用シハ勢ヲ加ヘ強キ所ニ用シ
 ハ和ク之誠ニ其徳勝テ不可計ノ手細ナリ

○ 引放ノ手細ヲ又母ト云々

口傳

○ 引ト放ト云々

口傳

○ 陰ノ引放ノ事

口傳

○ 陽ノ引放ノ事

口傳

○ 陰ニ引テ陽ニ放ス事

口傳

○ 陽ニ引テ陰ニ放ス事

口傳

○ 強ノ引放ノ事

口傳

○ 柔ノ引放ノ事

口傳

○ 強ニ引テ柔ニ放ス夏

口傳

○ 柔ニ引テ強ニ放ス夏

口傳

○ 引テ持テ放ス夏

口傳

○ 透テ引テ放ス事

口傳

○ 引放ニ六之心得百夏

口傳

○ 引程ノ事

口傳

○ 放ス程ノ事

口傳

○ 引早目ノ事

口傳

○ 放ニ早目ノ事

口傳

○ 引後レノ事

口傳

○ 放ニ後レノ事

口傳

當流宗師

日本武尊

迎來流

貞純親王

鹿嶋流

八幡太郎

六條判官

湯山入道中原

玄性

為義

義家

大坪流

大坪式部太輔

廣秀

村上加賀守

永幸

斎藤備前守

國忠

斎藤安藝守

好玄

斎藤備後守

忠玄

斎藤斎宮頭

辰遠

丹州住僧了慶坊

斎藤求馬

辰光

大坪本流

斎藤主統

定易

久保田宗順

弘道

大南地志

卷之三

大南地志

卷之三

卷之三

